
地獄耳? 1 1 1 1 1

若宮ひよこ?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地獄耳？111111

【Nコード】

N9935L

【作者名】

若宮ひよこ？

【あらすじ】

中学生の久子は、悪い噂を聞いては、その噂をさらにひろげてばかりいた。

母は久子に「人の悪いところばかり言っていると人のいいところを探せなくなる。」と教えたが、久子は何がいけないのか分っておらず、どんどん悪口を言うようになり・・・？？

（前書き）

このお話は、もちろん自作なのですが、少し「奇妙」なものにした
いなと考えておりました。

「世にも奇妙な物語」っていうたまにやってる番組をご存知でしょ
うか？

ワタシはあれがすごい面白くて・・・w

いつか番組にワタシの作品が出せたらな～とも思っているんですが。

（＾－＾）

「ねーねー、隣のクラスの川井さんって、かなりの男っただらしないよー。」

「へえー．．．そうなんだあー!!」

「ねえねえ、お母さん。B組の川井さんって、かなりの男っただらしないよ。」

「久子．．．。」

お母さんは、眉を吊り上げて私に言い聞かせた。

「あのね、人の悪いところばかり言っていると、人のいいところが探せなくなるのよ。」

「．．．??何で??私、友達が言ってたことそっくりそのまま言っただけじゃん。」

何が悪いって言うの??分ないよ．．．。

私はそのお母さんの言った言葉の意味がよく分らず、気に留めることもなく、噂を聞いてはすぐに近くの友達や近所の人にまで流して言った。

．．．

「あのね、クラス1美少女の森川さんは、小学校時代めっちゃ太ってたらしいよ。でもね、あの通販の　を使って痩せたらしいよ。」
「聞いて。聞いて。普段明るくて人気者の星野さん、こっそり、ムカつく人の名前をメモしてるらしいよ。」

「モテキャラの吉井君、小学生の頃いじめられてたらしいよ。」

「矢谷さんってCクラスの橘さんにセクハラしてたらしいよ。」

私は・・・その内、人の悪い所を無理に見つけて、それを友達に聞かせたりするようにもなった。

グループ活動の時に、ちよつと北川さんが「真面目にやってよ。やる気あんの？」と注意しただけなのに、私はそれを友達にこう伝えた。

「北川さんつてさ、行事とかグループ活動に熱くなりすぎだよね。ちよつと気い抜いただけなのに、すぐ怒ってきたし。」

ガリ勉で有名な山本君。本当は、私と比べられて悔しかったただけなのに・・・。

「山本君つてさ、自分が頭いいこと自慢しすぎじゃない??どうせ私は頭悪いですよゝみたいな?w」

・ ・ ・

「お母さん、あきつてね、すごいヒドイんだよ。私がピーマン嫌いなこと知っててわざと大盛りにしたの。」

「久子・・・。」

お母さんは、何とも哀れで虚ろな目をして私を見つめた。

そう、私は、いつしか親友の悪口まで言うようになってしまったのだ・・・。

「どうしても、いい所は見つけれないの??」

「うん・・・。無理だよ・・・。次から、次へと、人の悪いとこばつか見えてくるの・・・。」

「ねえ、あきちゃん、久子が入院した時、毎日のようにお見舞い来てくれたでしょ??」

「忘れた・・・。」

「森川さんは、雨の中、久子のノート届けに来てくれたでしょ?？」
「そうだっけ・・・??」

「北川さんなんて、家に遊びに来るたび、お母さんの横に立って、夕飯のお手伝いしてくれたじゃない。」

「へえ・・・。そうなんだあ・・・。」

何を言われても、全くと言って興味がなかった。
人のいい所なんて・・・。いい所なんて・・・。
知らなくていい・・・。知って何になる・・・。

・ ・ ・

「ねえ、久子!!あのね、鈴木さんってめっちゃセンスいいんだよ!!見て!!こんな可愛いストラップくれたの!!」

「・・・。」

「・・・??あれ??どうしたの・・・??久子??」

聞こえない・・・。何を言ってるのか・・・。全く・・・。

「久子!!山本くんって、ただのガリ勉に見えて、めっちゃ面白いこと言う人なんだよ!さっき、昨日のお笑い番組のネタやってさ。」

だから・・・聞こえないってば!!

「久子!!吉井君、やっぱ顔だけじゃないよ。相談事とか乗ってくれるし」

やめて・・・。話しかけないで・・・!!

「やめてってば!!」

思わず・・・口に出してしまった・・・。

「え・・・??」

クラスみんなが、一気にゴソゴソと話し始める。

今度は・・・聞こえる・・・。何となく・・・。

少し、耳を傾けてみる。

「久子ってさー、すぐ人の悪口言うよね。」

「久子って絶対自分のこと可愛いとか思ってるよな。」

「久子が何気、一番の嫌われ者じゃね??」

「久子って、すぐ人のマネするよな。」

「・・・何で!? 何でみんなして私の悪口ばかり・・・!!」

あの時は・・・あの時は私と一緒にになって他の人の悪口言ってたじやん!!

「ただいま・・・。」

重たい足取りで階段へと上がる。

私の部屋を、お母さんが片付けている所だった。

「お母さん・・・。あのね、今日ね・・・。」

いつもの「おかえり」の返事がないことに違和感を覚えたが、涙を堪えて今日あった話を話そうとした。

「久子・・・。アンタ・・・なんて・・・。」

その時のお母さんの表情は、今までに見たことのない程に恐ろしく、残酷なものだった・・・。

「生まなきゃよかったわ・・・。本当に・・・。」

ポタリ・・・。思わず、堪えていたはずの涙が零れおちた。

お母さんだけは・・・と信じていたのに・・・。

私の耳は「地獄耳」・・・。

どんなに優しい人だって、その人のいい所を知ることができない・・・

・。

いつだって・・・そう・・・。

聞こえてくるのは私の悪口・・・。

（後書き）

短編って言っていいいんでしょうかね??これは・・・w

すみません。少し長くなっちゃったかもしれません。（・・・x）

何かちよつどいい量で書けなくて・・・w

それから、只今勉強中なんですが・・・ジャンルのことがよく分らなくて・・・w

ここでもかったんですかね??このお話・・・^^;

とにかく!!とにかく!!目を通して下さって、本当にThank
youデス

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9935/>

地獄耳?11111

2010年10月9日17時23分発行